

## 令和2年度鹿児島県歯科口腔保健推進協議会の開催結果について

- 1 日 時 令和2年7月31日（金）13：30～15：00
- 2 場 所 鹿児島県赤十字血液センター2階クロススペースかもいけI
- 3 出席委員 11名（代理出席4名を含む）  
伊地知会長，森永委員，大西委員，於保委員，田畑委員（代理：中重副会長），下川委員，湯元委員（代理：竹下保健福祉部長），赤星委員，勝田委員，東條委員（代理：楠生主任指導主事兼健康教育係長），地頭所委員（代理：清藤保健福祉部次長）
- 4 公開・非公開の別  
非公開
- 5 傍聴者  
1名
- 6 内 容
  - (1) 報告
    - ア 本県の歯科口腔保健の現状について
    - イ 令和2年度の県及び市町村並びに各団体の取組について
    - ウ 鹿児島県口腔保健支援センターの設置に係る相談実績について
  - (2) 協議
    - ア 「県歯科口腔保健計画」の計画期間の延長について
    - イ 若年期の歯科口腔保健対策について
- 7 主な意見
  - 「かかりつけ歯科医」は大切であるが、「かかりつけ歯科医に定期的に受診する」行動は、本人の意識があるかどうか。行動変容させるためには、本人に意識付けが大切である。働きかけの工夫が必要。
  - 保護者の意識の低さに関連して、心臓疾患の手術の場合、予約の段階で歯科受診を進めるが、歯科受診（治療）の必要性について理解している方は少ない。早い段階から全身と歯科の関連について必要性を伝えていくことが大切。（保護者も含めて）
  - 高校生の目標に掲げている「自己管理ができる」が高校生で身につけば、社会人になっても継続して実施できると思う。「かかりつけ歯科医」については、高校卒業等で地元を離れるケースがあるが、新しいところでの「かかりつけ歯科医」を探すことも重要である。